

災害ごみの片付けにおける高齢者支援の実態と課題

国立環境研究所 鈴木薫、多島良

災害ごみの片付けについて、高齢者がどのような支援を受け、支援を円滑に行うにはどのような課題があるかを明らかにするため、2019年に台風被害を受けた館山市でヒアリング調査を行った。その結果、片付け・排出支援では仮置場での待ち時間や地域によるボランティアの利用格差が、搬入支援では市が行った高齢者向け個別回収の要件設定が、情報共有では平時に公的支援や近所づきあいが無い高齢者に情報がゆきとどかない恐れがあること等が、課題であることが分かった。

調査地域と調査方法

●調査地域

2019年9月の台風15号、10月の19号で被害を受けた千葉県館山市

●館山市の特徴

- ①被害が大きい地域の高齢化率が40%~60%と高い。
- ②高齢者を想定して自宅まで災害ごみをとりに行く「個別回収」を実施。



館山市による個別回収の様子 (館山市提供)

●調査方法

災害ごみ・高齢者支援の関係主体に電話インタビュー (2021年10月~11月)

調査対象	役割	
館山市の関連部署	環境課	災害ごみの収集・処理
	高齢者福祉課	安否確認・高齢者支援
	危機管理課	防災・危機管理
社会福祉法人	館山市社会福祉協議会	ボラセン開設・運営
消防機関	館山市消防団	安否確認・搬入支援
コミュニティ組織	A地区 連合町内会	地域の災害対応・高齢者支援
	B地区	"
	C地区	"



災害ごみの片付けにおける高齢者支援の課題と考えられる対策

支援種類	課題	考えられる対策
片付け・排出支援	離れて住む子供は遠方から通ってくる場合や、仕事を休んで手伝いにくるなどしており、活動には時間的な制約がある。	限られた時間の中で、受援側と支援側が効率よく作業をすすめるためのノウハウの蓄積と共有。排出にかかる時間を減らす仕組みづくり。
	ボランティアの集まりやすい地域とそうでない地域でボランティアの受援度合いに差が生じていた	ボランティアの受援に格差が生じないように施策を検討。
搬入支援	個別回収の申し込み件数は膨大となり、受付・回収を行う担当課の負担が大きかった。	後期高齢者や障害のある人だけを対象する、審査に福祉担当課の協力をあおぐなど、本当に支援が必要な人に注力する手立てを検討。
	同日に多くの搬入が集中し、仮置場で渋滞が起きて高齢者を支援する側にとって大きな時間のロスになった。	搬入日と地域によってずらすなど、仮置場への持ち込み件数の平準化や大型ダンプ積み替えなど搬入台数を減らす手法を検討。
情報共有	ボランティアや個別回収等の支援は申請主義のため、情報共有を助けるアクターとの接点がない場合、高齢者が受援の機会を逸する可能性がある。	ケアマネージャーがついていない、自治会に入っていない、民生委員の訪問を断っている、支援物資を配布する公民館等まで歩いて行けないなど、支援から取り残されやすい特徴を整理し、アウトリーチ型の支援を検討。

発災後の片付けごみ収集の流れ

市が当初想定していなかった臨時集積所等へのごみの排出が大量に発生したため、行政だけでなく、地域コミュニティやボランティア等の協力による搬入支援が行われた。

